

第1学年 算数科学習指導案

令和7年11月21日

1年1組19名

指導者 藤田 彩菜

1 単元名 ひきざん(2)

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、算数科の学習に意欲的であり、進んで挙手をしたり根気強く問題に取り組んだりしている。「ひきざん(1)」では、式の読み取り方や表し方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(10以下の数)-(1位数)の計算を学習した。「3つのかずのけいさん」「たしざん(2)」の学習では、問題場面と数図ブロックの操作を対応させて自分の言葉で説明したり、考えを絵や図などに表したりする活動を設けてきた。それらの活動を行う中で、問題解決の過程を友だちに伝えたり、自力解決できたりしたことに自信をもち、意欲的に表現しようとする児童が増えてきている。しかし、考えの根拠を明確にして説明することや友達の意見と自分の考えを比べながら聞くことは、まだ十分ではない。

(2) 単元の学習内容について

本単元は、(十何)-(1位数)について、繰り下がりのある計算の仕方を理解し、それを用いて計算ができるなどを主なねらいとしている。繰り下がりのあるひき算の方法には、数え引き、減加法、減減法などがある。様々な方法の中でも、10のまとまりから減数をまとめて引く減加法は、児童のこれまでの学習内容とも大きく関わっており、他の方法に比べても手際がよく、減法の筆算にもつながる考え方であるため重視する。本単元の学習を通して、新たな計算に出会ったとき、既習の計算や数の見方を使って解決しようとしたり学習したことを見発展的に考えたりするような態度を養いたい。そのために、児童が既習の数の見方に着目し、図などを用いて新たな計算の仕方を考えることができるよう支援する。また、計算カードを用いたゲーム的活動を取り入れて主体的に学習できるように工夫し、十分な理解と習熟を図りたい。

本時は、本単元の導入である。授業の始めに既習のひき算と何が違うかを話し合うことで、課題意識や見通しをもたせたい。計算の仕方を考える場面では、数図ブロックの操作や絵や図、式などで表現する時間を十分に確保し、一人一人が自分の考えをもつことができるよう支援する。考えを交流する場面では、それぞれの考え方のよさを認めつつ、それらを比較する中で10のまとまりから引くよさに気付くことができるようになしたい。

(3) 研究主題との関連

① 子供が主体的に問題解決に取り組むための教師の支援

生活科「あきとあそぼう」で、どんぐりやまつぼっくりを用いておもちゃを作り、園児を招いて交流会を行う準備を楽しみながら進めている。児童が興味・関心をもって取り組むことができるよう、単元の導入時にどんぐりを扱った学習問題を設定する。また、場面絵を提

示することで、一人一人がしっかりと問題場面の状況を把握できるようにする。自分で考える場面では、数図ブロック、絵や図、式など多様な方法を認め、自分に合った仕方で解決できるよう支援する。

② 子供が自分の考えを表現し、伝え合い、深め合う学びを実現するための教師の支援

友達と考えを伝え合う場面では、児童の素直な言葉を大切にしながら、その中にある「数学的な見方・考え方」を価値付け、学級全体に広めていくことができるよう、適切な問い合わせ返しや言葉かけを行っていく。また教え合う活動を取り入れ、助け合いながら問題解決ができるよう支援し、どの子も自信をもって自分の考えを表現できるようにしたい。

③ 子供の学びを確かなものにするための振り返りと学習評価

繰り下がりのあるひき算の計算の仕方が、視覚的に分かる板書にすることで、児童が学習を振り返る手立てとする。また、自分と友達の考えを比べながらよりよい方法を見いだしているか、減法に関心をもって取り組んでいるかについても評価し価値付けることで、次時への意欲につなげたい。

3 単元の目標

- (1) 繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)-(1位数)の繰り下がりのある計算ができる。
- (2) (十何)-(1位数)の繰り下がりのある計算について、被減数を10といくつに分け、減加法で計算の仕方を考えることができる。
- (3) ひき算が用いられる場面に親しみをもって関わり、10といくつという数の見方で計算するよさや学ぶ楽しさを感じている。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①(十何)-(1位数)について、繰り下がりのある計算の仕方を理解している。	①10といくつに分けて、繰り下がりのある計算の仕方を考えている。	①10といくつという数の見方で計算するよさや学ぶ楽しさを感じている。
②(十何)-(1位数)の繰り下がりのある計算ができる。	②加法及び減法を用いて問題解決できるかどうか、数量の関係に着目し、具体物や図などを用いて考えている。	②(十何)-(1位数)が用いられる場面の数量の関係を捉え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。

5 単元計画(12時間)

時 間	ねらい・学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本 時	(十何)ー(1位数)で繰り下がりのある計算について、数図ブロックや図などを用いて計算方法を考えることができる。 ・(十何)ー(1位数)が用いられる場面の数量の関係を捉え、具体物や図などを用いて計算の仕方を考える。		・思① (観察・ワークシート)	
2	(十何)ー(1位数)で繰り下がりのある計算について、計算方法をつくり上げることができる。 ・計算の仕方を数図ブロックや図を用いて説明する。	・知① (観察・ノート)	・思① (観察・ノート)	
3	減数が6、7、8、9の計算ができる。 ・求差の場面の問題を解く。	・知② (観察・ノート)		
4	減数が5、4、3、2の計算ができる。 ・立式をし、計算方法を考える。		○思① (観察・ノート)	
5 6 7	ひき算カードを使って繰り下がりのある計算を練習し、習熟する。 ・ひき算カードを使って繰り返し練習する。 ・カードゲームを行う。	・知② (観察・発言)		・態① (観察)
8	ひき算カードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを見付けることができる。 ・答えが同じになるカードを集めて並べ、カードを見て気付いたことを話し合う。		・思① (観察・発言)	・態① (観察・発言)
9	数のカードを用いた「かずあてげえむ」を通して、加減の計算の理解を深める。 ・たし算やひき算の式から、裏返しになったカードの数を考える。	・知② (観察・発言)		
10	たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、計算のお話をすることに关心をもつ。 ・計算の紙芝居の作り方について理解し、紙芝居を作り、発表する。		○思② (発言・ノート)	○態①② (観察)
11	学習内容の理解を確認する。 ・繰り下がりのある計算の仕方を言葉でまとめる。	○知①② (ノート)	○思① (発言・観察)	○態② (観察)
12	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	○知①② (ペーパーテスト)	○思①② (ペーパーテスト)	

6 本時の学習(1/12)

(1) 目標

(十何)-(1位数)で繰り下がりのある計算について、図や式、数図ブロックなどを用いて計算の方法を考え、10のまとまりから引くよさに気付くことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の支援	具体的評価規準 (評価方法)
1 問題場面を見て課題をつかむ。 どんぐりが13になっています。 9ことると、なんこのこりますか。	既習のひき算との違いについて話し合う中で課題意識や見通しをもたせる。	
13-9のけいさんのしかたをかんがえよう。		
2 図や式、数図ブロックなどを使って、計算の仕方を考える。 ・数え引き ・減加法 ・減減法 ・補加法	図や言葉、式だけでなく、数図ブロックを操作して考えてもよいことを伝え、自分に合った方法が選べるようにする。	・思① 数図ブロックや図などを用い、10といくつに分けて計算する方法を考え表現しようとしている。 (観察・ノート)
3 計算の仕方について自分の考えを発表し、話し合う。 ・自分の考えと違う計算方法を知る。 ・10のまとまりから引くと考えやすことを知る。	それぞれの計算方法の特徴が明確になるような問い合わせしをすることで、相違点に気付くことができるようになる。 ・10のまとまりから引くよさが視覚的に分かるような板書の工夫をする。	
4 適用問題に取り組み、本時の学習を振り返る。 ・15-9 ・12-9	学習したことをもとに自分の言葉で計算の仕方が説明できるよう支援する。	

(3) 評価及び具体的な支援

「十分満足できる」と判断される状況	繰り下がりのある計算について、図や式、数図ブロックなどを用いて10といいくつという数の見方で計算方法を考え、分かりやすく説明することができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	数図ブロックを指導者とともに操作することで、問題場面の状況を把握できるようにし、「10といいくつ」に分けて10のまとまりからとることを意識できるようにする。